

第4回有識者懇談会(令和6年5月開催)でのご意見と対応状況

資料 2

業務	ご意見	発言者	対応状況と今後の方針
シアター	プロローグシアター、西田敏行さんのナレーションで素晴らしいが、時間が短すぎるのではないかと。物足りないのでは、もう少し肉付けできないかと開館時から思っている。インパクトを与えるのはスタート。西田さんという福島の名優がいるわけなので映像が5分というのはもったいない。来館者はものすごく集中して観ているのに。5分でなくて10分とか、15分は長いかもしれないものの、そのくらいの時間があってもいいだろう。もう一回作り直しを含めて検討するのはどうか。プロローグシアターは大事にしたい。	伊澤委員	西田さんは昨年に亡くなったためナレーションを作り直すことはできない。その意味でこの映像の価値は大いにある。シアター映像の内容や時間を改める場合はその変更にかかる団体の受入など運用を見直す必要が出てくるため、総合的に検討していきたい。
展示	第5ゾーンの強化。 事故から何を学んだのか、「教訓」を考えられる場をつくってほしい。もしこの件についてワーキンググループを作るなら、自分もぜひ立候補したい。「教訓」を正面から考えられる場所にしてほしい。	前川委員	コーナーの一部を変更し、来館された方が「教訓」など何かを持ち帰ることができる、もしくは学びを提供できる場を設けることも検討していきたい。
展示	13年たって、それぞれ違いがあるとしても、新しい街づくりをしようとしていると思うが、復興計画などの会議が重ねられてきている状況で、それぞれの町が何を創りこうしたいという方向性を私は知りたい。今の町村（双葉郡）の状況を知りたいし、難しいかもしれないが、そのような企画は伝承館でしかできないと思う。	青木委員	令和6年度の常設展示替えて、第4ゾーン「長期化する原子力災害の影響」において避難地域12市町村の学校及び人口推移（居住人口）に注目した展示更新を行った。なお、R7年度は浪江町に関する展示（10月～）を行う予定です。
展示	13年前のことと被災を受けた町がどうなっているのか、そういった対比は伝承館の展示でも大事だと思います。	小沢委員	伝承館で制作したパネルの中には震災直後と現在の対比をしたものもあり、出張展でも活用している。また、第4ゾーンの展示更新（壁面）にも追加しました。
語り部	観物協としてフィールドパートナーを増やしていかなければという課題。伝承館も語り部も増やすことが、受け入れ体制としても大切と思う。	観物協 渡辺部長	今年度新規の語り部を2名登録し、登録されている語り部は合計で37名となっている。今後は外国語対応も含め人材育成を進めていきたい。

業務	ご意見	発言者	対応状況と今後の方針
展示	展示があまり変わらなかった部分で福島が内に外にどう対応しているか、その一番ベースになっている健康不安、放射線検査などを県外の同世代の方々、若い世代の人たちにしっかり認識してもらうためにはどう発信すればよいのかな、そのことを伝承館も考えていただきたい。 展示替えの中で、中間貯蔵があった。2045年の県外処分に向けてなど、あの展示だけで分かるのかと疑問である。高校生でも基礎的な知識がないと分からないのではないか。これを機に、学んでみようとする展示なり機会があると、福島県の課題になっていること、それは自分たちの世代の課題あるということ、をまさに今日来てくれた子どもたちに知ってもらいたいという思いがあるので、展示の工夫をしてもらいたい。	小野委員	小中学生のような若い世代にも理解してもらえるように、令和6年度に学校や教育を扱った展示を追加した。第4ゾーン「長期化する原子力災害の影響」において避難地域12市町村の学校に着目した展示更新を行いました。他の展示に関しても子どもたちの興味関心を惹くような工夫を行っていききたい。
研究	学校現場で課題として感じたのは、伝承館で学んだ子どもたちの感想が家庭や地域となかなか共有されないこと。 教員を含め大人もしっかりと震災を学んでいくこと、子どもたちと繋がっていくことが大切であり、そういう意味でも、伝承館が全ての世代において震災学習の始まりの場であることを望む。	箱崎委員	伝承館でのより深い学びを目的として、web上で生徒用、教員用の2種類の「事前学習教材」（無料）の提供をR6年度末から開始している。このプログラムの浸透にはまだ時間を要すると考えられる。今年度は導入事例の紹介動画などを公開し、広報に努める。
展示	外国人が4%ということで、県内も1%を超えた。外国人が増えていることのプラス方向には若い方への影響も考えられ、複数の言語で伝えられる仕組みを考えることは非常に重要であると思う。	小沢委員	多言語対応として展示解説ガイドを英語・簡体字・繁体字・韓国語で導入した。今後は需要の高い言語を中心に追加していくことも視野に入れ検討する。なお、R6の外国人入館者は全体の約5%の4,565人（参考：R5 4,086人）であった。